

◆大横綱双葉山、太宰府に来たる

不世出の横綱と騒がれた双葉山(引退後時津風)は、戦時日本の国民的英雄でしたが、角界史上最強と謳われる名力士です。

本名は穂吉定次。明治45(1912)年2月9日大分県宇佐郡天津村(現宇佐市下庄)に生まれ、昭和2(1927)年15歳で立浪部屋に入門。入幕は同7年2月、大関昇進は同12年1月。横綱昇進は同13年1月で当時25歳。引退は同20年11月。優勝回数12回(うち全勝8回)。本場所連勝記録69連勝。生涯通算成績は49場所349勝115敗1分33休、幕内通算成績は31場所276勝68敗1分33休でした。

相撲評論家・故小坂秀二氏は著書『わが回想の双葉山定次』の中で双葉山69連勝の偉業をたたえています。当時は1年2場所の時代。つまり双葉山は昭和11年春場所から同14年春場所までの足かけ4年勝ち続けた。昭和14年の春場所4日目、名アナウンサー和田信賢が「双葉山敗る！70連勝成らず」と絶叫した新鋭安芸ノ海との対戦では、まさかの敗北に慌てた練達記者たちがその決まり手を見定められず全社そろって誤報した、というエピソードを紹介しています。

そんな大横綱が太宰府にやって来たのは昭和16年3月のこと。当時太宰府町では、相撲の祖・野見宿禰の記念碑を再建しよう

と野見宿禰公顕彰会を結成、双葉山に諮って立浪部屋一門の奉納相撲を企画します。

当時の新聞は、20日午後7時2分、省線二日市駅(現JR二日市駅)に一行が到着。横綱双葉山・大関羽黒山ら力士120名、行司・三役その他含めると総勢300余名が太宰府と武蔵温泉に分宿したと報じます。22日に奉納相撲挙行。この年の春場所、双葉山は14勝1敗の成績で8回目の優勝を飾っており、双葉山の相撲を見ようと人々が太宰府へ大挙して押し寄せたことは想像に難くありません。この興行の間、九州鉄道(現西鉄大牟田線)では福岡と久留米の両駅で午前5時の始発から急行列車の臨時便を増発、また宇美・二日市間でバスの増便も行いました。

太宰府人物志

資料室だより③

このことが縁となつてか、昭和18年の秋、双葉山は宝満山麓に念願の相撲道場を開きます。この「双葉山道場」は一般人を対象に相撲の指導を行うものでしたが、戦時中は主に学校教員や青年団幹部の相撲錬成所として利用されました。双葉山は終戦の前後、東京と太宰府を拠点に活動しますが、この道場の維持運営は当時困難を極めたらしく、昭和23年に福岡県に売却します。翌年4月、道場は「福岡県双葉養老院」として生まれ変わり、現在にいたっています(現双葉老人ホーム)。

市史資料室 藤田理子